



第八回 (昭和八年十二月) 農務局 法務局 学務局
帝國議會説明資料 三冊ノ四三

REEL No. A-0555

0005

アジア歴史資料センター

昭和十八年

第八十四回帝國議會說明資料

勸業總督府農商局

REEL No. A-0555

0000

アジア歴史資料センター

目次

農商局

◎ 資料

一、農耕地ノ賦存ト其ノ分配（各道別、作物別、自小作別、毛作、二毛作別、水利安全番、不安全番別）

二、補助事業ノ現況

（一）帝國發明協會朝鮮本部

（二）朝鮮法人朝鮮工業協會

（三）輸出種在ニ關スル件

（四）朝鮮貿易協會

（五）朝鮮輸出工業協會

（六）見本市参加費

頁

一

六

六

九

一

一六

二二

二六

（七）商工業組合補助

（八）商工相談所補助

（九）工業補助

（十）中小工業轉業施設費補助

三、各種補助事業ノ實績（計審的ノ主ノハ、當初年度以降毎年度計審ト對照、コト）收支計算及補助内規

（一）米穀増産施設費補助

（二）自給肥料獎勵補助金收支計算

（三）食糧畑作物増産獎勵補助

（四）産額増産獎勵費補助

（五）耐寒性作物栽培獎勵計費

二八

三〇

三一

三二

三三

三三

三三

四九

五〇

五三

五四

内 棉作補助	五九
(七) 大麻栽培奨励補助	六一
(八) 豚兔飼育奨励補助	六二
(九) 甘藷普及増産奨励補助	六三
(十) 病蟲害驅除豫防補助	六五
(十一) 不二農村産業組合補助	六六
(十二) 耕作者移住奨励補助	六八
(十三) 水産組合補助	七二
(十四) 内 優良漁船補助	八五
(十五) 内 浅海水産物増殖奨励補助	九一
(十六) 内 水産物増産處理費補助	九六
(十七) 内 漁船定施設費補助	九七
(十八) 内 昭和十年年度豫算ニ認メラレタル整理組合ノ現況並ニ救済方法及將來ノ見込	九九
(十九) 内 養蠶業ノ現況並ニ將來ノ計策	一〇一
(二十) 内 蠶絲業ノ現況	一〇六
(二十一) 内 家畜衛生研究所ノ規模、事業概要、業績	一〇八
(二十二) 内 自作農救済ノ現況並ニ將來ノ方針	一一二
(二十三) 内 果實ノ生産及輸出ノ現況	一二〇
(二十四) 内 重要農産物(蔬菜ヲ含ム)累年生産額表	一二一
(二十五) 内 重要農産物輸出ノ現況	一二五

五 賦

五米穀倉庫状況

一三九

五既成水利組合ノ現況及收支計算並ニ土地改良資金貸出及償還実績

五 賦

一四〇

五 賦 有未墾地、公有水田(干潟、沼澤)ノ現況、利用及成績乃

至應分ノ方針

一四一

五 賦

一四二

五 賦 肥料量内無比較(最近五ヶ年)

一四三

五 賦 穀並麥類生産費

一四四

五 賦 臨時農地價格統制令及臨時農地等管理令實施ノ状況並ニ各

ノ影響

一四五

五 賦 朝鮮ニ於ケル主要家畜頭數及主要畜産ノ増殖率並最近五ヶ年

比較

一四六

五 賦 朝鮮ニ於ケル主要家畜ノ輸移出入最近五ヶ年比較表

一四七

五 賦 農用地下水利用調査ノ計書、実績

一四八

五 賦 水産品漁獲高(數量、價格)、水産製品、養殖生産價格並最近

比較

一四九

五 賦 西北細移殖事業(計書、實績對照)

一五〇

五 賦 朝鮮ニ於ケル主要會社一覽表

一五一

五 賦 商工會議所及商工相談所

一五二

(一) 作物別耕地面積表

其ノ一

道名	蔬菜	果樹	麥類	綿	桑	絹以外ノ 纖維作物
京畿道	二八七七八	二〇五二三	一三三八四	三〇九〇五	五五二五七	二四八九〇
忠清北道	七〇八六九	四三〇七	一〇〇七三	二五九六三	三八一一九	九五一三
忠清南道	一三六九三	四三二三	一一四九二	二一七五三	七八九六九	一三二六三
全羅北道	一六三二八	八六四五	一三七七八	一六二八二	五〇七一一	四三三三〇
全羅南道	一三二七九	一〇五一一	二〇六一五	六七五三〇	五五八一一	三八九二五
慶尙北道	一一八三〇	五五一九	二二八四三	四九八七三	一三二四八	四一六九〇
慶尙南道	一三五一八	一四九九	一八四七一	三六四〇七	七八九三一	四五一三二
畿海道	一六六〇九	七五四八	一三三九四	三六七一	五七一八四	四二九三〇
平安南道	一一六六九	五〇六三	六六三三七	二七五四三	六二八六五	三六五六八
平安北道	一五四五六	三五六五	六三二七五	一〇七四三	六五七〇〇	七〇九二四
江原道	二一七四一	四一九一	七六八二八	一三〇五九	一一二六一	七九三六八
慶尙南道	一三六一八	六〇〇六	五〇七六	一七〇七	三三三三	一〇七三〇
慶尙北道	七六六一七	一七四一	五〇七六	一〇九三	一〇九三	五七九九
合計	一八六八二三	三二八二四	一四七九四	三〇二八四	八八三二四	二六六〇

道名	豆	甘藷及馬鈴薯	穀
京畿道	一〇七四一	一〇七四一	一〇七四一
忠清北道	一〇七四一	一〇七四一	一〇七四一
忠清南道	一〇七四一	一〇七四一	一〇七四一
全羅北道	一〇七四一	一〇七四一	一〇七四一
全羅南道	一〇七四一	一〇七四一	一〇七四一
慶尙北道	一〇七四一	一〇七四一	一〇七四一
慶尙南道	一〇七四一	一〇七四一	一〇七四一
黃海道	一〇七四一	一〇七四一	一〇七四一
平安南道	一〇七四一	一〇七四一	一〇七四一
平安北道	一〇七四一	一〇七四一	一〇七四一
江原道	一〇七四一	一〇七四一	一〇七四一
咸鏡南道	一〇七四一	一〇七四一	一〇七四一
咸鏡北道	一〇七四一	一〇七四一	一〇七四一
合計	一〇七四一	一〇七四一	一〇七四一

(2) 自小作別耕地面積表

道名	土地台帳帳登簿新地		戸面面積		自小作、割合		農家戸面面積	
	自小作	割合	自小作	割合	自小作	割合	自小作	割合
京畿道	100000	100%	100000	100%	100000	100%	100000	100%
関東道	100000	100%	100000	100%	100000	100%	100000	100%
中部道	100000	100%	100000	100%	100000	100%	100000	100%
近畿道	100000	100%	100000	100%	100000	100%	100000	100%
中国道	100000	100%	100000	100%	100000	100%	100000	100%
四国道	100000	100%	100000	100%	100000	100%	100000	100%
九州道	100000	100%	100000	100%	100000	100%	100000	100%
平均	100000	100%	100000	100%	100000	100%	100000	100%

自一毛作、二毛作別耕地面積表

道名	一毛作		二毛作		計		田	計	火田面積
	面積	割合	面積	割合	面積	割合			
京畿道	100000	100%	100000	100%	100000	100%	100000	100%	
関東道	100000	100%	100000	100%	100000	100%	100000	100%	
中部道	100000	100%	100000	100%	100000	100%	100000	100%	
近畿道	100000	100%	100000	100%	100000	100%	100000	100%	
中国道	100000	100%	100000	100%	100000	100%	100000	100%	
四国道	100000	100%	100000	100%	100000	100%	100000	100%	
九州道	100000	100%	100000	100%	100000	100%	100000	100%	
平均	100000	100%	100000	100%	100000	100%	100000	100%	

一 水利安全並不安全別耕地面積表

道名	總耕地面積	水田		計	田
		安全並	不安全並		
京畿道	三八二、七九〇	七三、三九六	一三九、五二〇	二一三、六五〇	一七〇、一三八〇
忠清北道	一五七、〇九六	三六、三三九	三六、六六二	七三、〇〇一	八四、〇九五〇
忠清南道	二二四、八八〇	六三、五四八	八〇、七九六	一四三、三四八	八一、五三六〇
全羅北道	二四一、四三九	八七、三五九	八五、三四〇	一七二、六九九	六八、七三二〇
全羅南道	三九〇、二二五	九七、二八一	三四、一三二	一三二、四一八	二一、七二七〇
慶尚北道	三八一、一五六	九三、五〇三	一〇九、九四一	二〇三、四四一	一七、七二五〇
慶尚南道	二七四、三九八	九七、七八〇	八〇、八八五	一八〇、六六五	九三、七三二〇
黃海道	五五四、〇六一	八九、〇四五	八七、三三五	一五六、七七〇	三九七、二八九〇
平安南道	三九三、七九八	四五、五五三	三七、八三六	八三、四八八	三〇九、三〇八〇
平安北道	三九六、九一一	六〇、八六二	三三、五〇九	九三、三七一	三〇二、八三三〇
江原道	三五二、三四七	五七、〇一六	三、七四〇	九五、七五七	二五九、四七八〇
咸鏡南道	四〇六、二四三	五七、五四八	一五、九六五	七三、五七三	三三九、〇五七〇
咸鏡北道	二〇八、三九二	一九、一六三	九、九二七	二〇、一八一	一八八、二一八〇
合計	四、三五七、二九三	八七九、五九七	八〇七、七七三	一、六八七、三七六	二、六六九、八四八〇

二補助事業ノ現況

一帝國發明協會朝鮮本部

朝鮮ニ於ケル發明思想ノ普及及發明ニ関スル諸調査
宣傳並ニ出願手續ノ指導助成等ヲ爲サシムル爲昭和
十五年帝國發明協會朝鮮本部ヲ設立致シ朝鮮本部ノ
下ニ京畿道平安南道慶尚南道ニ大々支部ヲ設置シ歐
時下緊急ヲ要スル各種發明ノ指導ニ當リツ、アリマ
シテ本年度ノ事業計画及收支豫算擬シテ、通りテア
リマス

三事業計画

一發明ニ関スル展覧會ノ開催

全鮮國民學校並ニ中等學校ノ児童生徒ノ創案品
展覧會及鮮内優秀發明品新興代用品ノ展亦會ノ
開催

二鮮内優秀發明ノ表彰

三各種展覧會出品補助

四發明ニ関スル座談會講習會講演會ノ開催

五公報ノ分類整理

へ出願手續ノ助成

ト發明ニ関スル調査宣傳

ヲ支那助成(京畿、廣東、平南)

リ發明相談所ノ開設

又試驗研究資料ノ對策

ル工業所有權ニ関スル紛議ノ調停又ハ仲裁及讓渡出

資ノ仲介其他業種ノ助成

(前收支計年(昭和二年豫算)

收支ノ部

會費	一四七三圓
補助金(國庫)	三五〇〇〇
商工會議所補助金	一〇〇〇〇
本會交付金	八一七五
恩賜金	四〇〇〇
繰入金	五〇〇〇
雜收	三四〇
計	六〇一五〇

支出ノ部

事務費	二一〇五〇圓
事業費	二〇〇〇〇
會議費	二〇〇〇
本會納付金	一〇〇〇
支那交付金	三六二五

計	積立	
	入金	
	借入金	
	利息	
	費	

六〇一五〇	二四〇〇	一五〇〇圓
-------	------	-------



又、社団法人朝鮮工業協會

朝鮮工業協會ハ昭和四年創立以來朝鮮工業ノ健全ナル發
達ヲ圖ル爲工業ニ關スル各種ノ調査研究ヲ爲シ官廳ニ
意見ヲ具申シ或ハ全鮮工業者大會ヲ主催スル等ノ事業
ヲ実施シ未タノデアリマスゲ朝鮮ニ於ケル鑛業工業ノ
發展ニ伴ヒ技術職工ノ需要ノ要請ニ應ズル爲昭和十二
年以來國庫補助ヲ受ケ鮮内主要鑛業工場ニ鑛業工養成
所ヲ開設致シ既ニ七年ヲ経過修業生約千名目下養成中
ノ若十七工場ニ約六百名アリマシテ毎年成績向上シ所
期ノ目的ヲ達シツ、アルデアリマス
更ニ戰時ニ鑛業工業ノ重要性ニ鑑ミ従業員ノ質的向上
ヲ圖ル爲鑛業工鑛成所ヲ設置ヲ計画致シ之ガ新營費ハ
會員ノ協出金ヲ以テ之ニ充テ總督府ヨリ經常費ノ一部
ヲ補助致シ目下建築中ニシテ明十九年八月竣工ノ豫定
デアリマス

收入、部	一三七〇〇〇圓
國庫補助金	三三〇〇〇〇〇
寄附金	一五〇〇〇〇〇
會計其他收入	一七五〇〇〇〇
計	一、七五〇、〇〇〇

支出部

工場委託講習生手当
 委託工場講師手当
 委託工場実習材料費
 講習諸費
 鍊成所講習生手当
 鍊成所人件費
 鍊成所帶費
 鍊成所雜費及豫備費
 鍊成所土地及実習工場賃借料

計

一四四〇〇
 二八〇〇〇
 四〇〇〇
 一三〇〇〇
 二五〇〇〇
 六八〇〇
 三一四〇
 七二〇〇
 一七五〇〇〇

3 輸出検査ニ関スル件

商務課

支那事変勃發前世界各國ハ等シク自國産業ノ積極的
保護政策ヲ採リ各自經濟ヲ確立スル狀態ニ鑑ミ本邦
輸出貿易ノ維持増進ヲ図ランガ爲ニハ輸出品ノ品質、数量、
價格等ニ付テ検査及統制ヲ實施スルハ最モ緊要事セラレタ
所デアリマス

朝鮮ニ於キマス輸出品工業ハ輒近著シク勃興ノ氣運ニ向ヒ世
界各市場ニ鮮産品ノ進出ヲ見ルニ至リマシタガ從來朝鮮ニハ
輸出品取締ニ關スル規定ガナクテ昭和九年以來内地産
ニシテ未検査品又ハ粗悪品、朝鮮經由海外輸出ヲ策シ内地ノ
統制ヲ奈スバカリテナク鮮産品ノ 價、傷ケルモノ著シク

増加ノ傾向ヲ來タシマシテ我が輸出貿易ノ振興上ハ勿論躍進
途上ニアリマス朝鮮産業上ニ於キマシテモ亦甚ク遺憾トスル所
デアリマシタノテ斯ル不正ヲ排除致シ眞執手ナル企業ヲ擁護
シ斯業ノ助長ヲ圖ル爲ニ昭和十年四月重要輸出品検査規
則ヲ制定致シ爾來重要輸出品テアル電球、珪瑯鐵器
ゴム靴並ニ同甲被及同底靴下、人造絹織物、亜米利加合衆
國向綿天鵞絨並ニ比律賓諸島又ハ香港向綿織物(昭和十七年一月
綿織物ト改訂ス)燐寸、合板ヲ逐次要検査品ニ指定致シ今日及ビ
マシタガ之ガ検査ハ認可致シマシタ検査機關ヲシテ一定ノ標準ニ依
リ之ヲ施行致サセ内鮮協請品質ノ向上及數量ノ統制ヲ図リ
ツ、アリマス

而シテ各検査事務ノ相當ノ設備及技術ト厳正且公平ナル處
 置ヲ要シマスノデ從來ノ組合又ハ法人ノ設備デハ検査ノ萬全ヲ
 期シ難ク慎アリ且右團體ノ財政ハ何レモ逼迫シ居リ之等ノ設
 備ヲ完備スルコトガ出来ナイ狀況デアリマスノデ本府ハ之等ノ団体
 三對シテ検査所建築費、機械器具費(以上初年度補助)及檢
 査員給(繼續補助)トシテ左ノ通補助致シ検査ノ萬全ヲ圖リツ
 ツアリマス

- 昭和十一年度補助 五萬八千九百圓
- 昭和十二年度補助 二萬二千九百八十圓
- 昭和十三年度補助 一萬四千四百圓
- 昭和十四年度補助 一萬四千四百圓

- 昭和十五年度補助 一萬九百五十圓
- 昭和十六年度補助 四萬四千八十二圓
- 昭和十七年度補助 二萬二千五百圓
- 昭和十八年度補助(豫定) 二萬二千五百圓

以下各検査機関別補助状況及各輸出品目別検査成績ノ
 概況ハ別表ノ通ニシテ輸出先ハ支那事變ノ勃發第ニ次歐洲
 戰爭ノ勃發ニ原因シ主トシテ圓域及泰國佛印並ニ新右領
 地域ニ限定セラレマシタガ何レモ検査實施以來品質著シク
 昂上シ成績頗ル良好トナリマシタ一面検査規則ノ建前ヨリ
 前記同種品ノ内地産品ノ朝鮮經由輸出ハ全然其ノ跡ヲ絶ツ
 ニ至リ内鮮相協力シテ輸出品取締ノ實ヲ擧ゲル結果トナリマシタ

重要輸出品検査補助状況

検査品	検査機関	補助	
		昭和十一年	昭和十二年
電球	朝鮮電球工業組合	一〇三三五	一八〇〇
珪瑯鉄器	朝鮮珪瑯鉄器工業組合	四六〇〇	一八〇〇
絹織物	朝鮮染織工業組合	一三三六〇	一八〇〇
人絹	朝鮮織染工業組合	一八〇〇	一八〇〇
ゴム靴	京城ゴム工業組合	九六四五	一八〇〇
"	平壤ゴム工業組合	六六四五	一八〇〇
"	南鮮ゴム工業組合	一六四五	一八〇〇
"	朝鮮工業組合	一八〇〇	一八〇〇
計		一〇五〇	一八〇〇

備考 昭和十八年度補助豫定額トス

検査品	検査機関	補助	
		昭和十八年	昭和十九年
靴	平壤製靴工業組合	七四五	一八〇〇
"	平壤製靴工業組合	六四五	一八〇〇
"	朝鮮製靴工業組合	一八〇〇	一八〇〇
燐寸	朝鮮燐寸工業組合	一八〇〇	一八〇〇
綿織物	朝鮮紡績工業組合	一八〇〇	一八〇〇
合板	朝鮮合板工業組合	一八〇〇	一八〇〇
計		五九〇〇	一八〇〇

(一) 電球検査成績調

仕向地	昭和十七年		昭和十八年		摘要
	数量	金額	数量	金額	
滿洲國	四〇六五、一〇〇個	四〇二、二一〇円	二五五、八〇〇	四二、一五五	
關東州	一一四、二〇〇	二二、二一三	九四、〇〇〇	一七、二三六	
支那	一七〇、〇〇〇	三七、四〇〇	三三五、〇〇〇	二四五、六四〇	
泰國	二〇、〇〇〇	七〇〇	四八三、〇〇六	五四、九九八	
佛印			五九、〇〇〇	一九、七六〇	
計	四、三六九、三〇〇	四六一、五二三	二、二六八、〇〇六	三七八、七八九	

備考 本表ハ朝鮮電球工業組合ノ輸出検査成績報告口ニ依ル

(二) 朝鮮琺瑯鐵器検査成績調

仕向地	昭和十七年		昭和十八年	
	数量	金額	数量	金額
滿洲國			一五〇、〇個	一七、二四四円
支那	二、六六九個	一九五、五七九	一、四五九	二二、三〇七
泰國	四、一二七	三四一、三六一	一、九三〇	一九二、五三五
佛印	九三九	七七、四二九	一、二一〇	一三三、一〇〇
計	七、七三五	六一四、三六九	六、〇九九	六一二、一五〇

備考 本表ハ朝鮮琺瑯鐵器工業組合ノ輸出検査成績報告口ニ依ル

(三) 人造絹織物検査成績調

仕向地	昭和十七年		昭和十八年		摘要
	数量	金額	数量	金額	
滿洲國	五、六九一、〇〇 <small>方碼</small>	四、九四二、七〇一 <small>円</small>	六、三四七、四一	六、七五〇、六〇	
關東州	一、二六、三三一	一、一七〇、九二七	一、八〇、六八四	二、四三四、五一	
支那	九〇、五五八〇	一、三六、四三六	八五、三九七	七、四一七、八	
東印度			九三、二五〇	三〇、三九二	
佛印			六九、九九七	二、五二五、四	
泰國			一、二、六〇〇	四、九九九	
計	七、二〇、〇一一	七、三五〇、五五四	一、七六、五六九	一、〇三三、三三四	

備考 本表、朝鮮織染工業組合聯合會輸出検査成績報告ニ依ル

(四) ゴム靴検査成績調

仕向地	昭和十七年		昭和十八年		摘要
	数量	金額	数量	金額	
泰國	二〇、五四四 <small>足</small>	一〇九、一四〇 <small>円</small>	一七九、七九〇	一八三、三六五	
計	二〇、五四四	一〇九、一四〇	一七九、七九〇	一八三、三六五	

備考 本表、朝鮮ゴム工業組合聯合會輸出検査成績報告ニ依ル

(五) 綿織物検査成績調

仕向地	昭和十七年		昭和十八年		摘要
	數量	金額	數量	金額	
滿洲國	一九三五三八	四一六五四六三	八六一九二	一八八八〇九	
計	一九三五三八	四一六五四六三	八六一九二	一八八八〇九	

備考 本表ハ朝鮮紡績工業組合輸出検査成績報告ニ依ル
 (六) 靴下、燻寸、合板検査成績調

16 現在トヨロ該當事項ナシ

4 朝鮮貿易協會

地理的ニモ又歴史的ニモ密接ナル關係ニ在ル朝鮮ト滿洲トノ貿易ヲ盛ニシ就中滿洲向輸出ヲ促進スル事ハ朝鮮産業ノ進展上緊要デアリマシクテ昭和六年朝鮮ニ於ケル官民多數ノ會合ヲ求メテ協議シマシク結果滿洲ニ對スル朝鮮物産ノ紹介、宣傳並ニ取引、斡旋機關ヲ設置スルコトニ決定シ朝鮮總督府、各道及商工會議所後援ノ下ニ昭和八年二月朝鮮貿易協會ヲ設立ヲ見タノデアリマス本協會ハ對滿支輸出ノ振興ヲ圖ル為朝鮮物産ノ紹介、宣傳、取引、仲介斡旋其他海

マシテ當初ハ本部ヲ京城ニ支部ヲ奉天ニ出張所ヲ安東ニ
 置キ業務ヲ開始シテノデアリマス其ノ後滿洲國ノ進展ニ伴
 ヒマシテ更ニ協會ノ基礎ヲ一層確立鞏固ニスルト共ニ益々
 機能ノ増進ヲ圖ル爲昭和八年六月組織ヲ變更シテ社
 團法人ト致シマシタ

支那事變ノ勃發後ハ軍需品ノ斡旋及北支ニ於ケル一般
 缺乏物資ノ應急充足ニ對處セシメマスト共ニ北支ニ於ケ
 ル政治機構ノ整備並ニ經濟事情ノ變化ニ伴ヒ協會根
 本的刷新強化ヲ圖ル必要ニ迫リマシタノテ朝鮮總督府
 ハ昭和十三年度ニ於テ國庫補助金ヲ増額シ本部ニ專守
 務理事ヲ置クニ共ニ逐次支部・出張所ヲ新設又ハ拡張

強化シ十三支部ヲ有スルニ至リ大ニ朝鮮貿易ノ新展ニ
 貢獻シテ參マシタガ支那事變ノ長期化ト當時支那極
 力ナキ國際情勢カハ從來ノ自由貿易ニ大転換ヲ要スルニ
 漸次統制計畫交易ヘト移行シ邊ニ高度ノ計畫ヲ樹立
 ガレマシテ第三國交易ノ元的調整機關トシテ昭和十六年
 ニ再朝鮮貿易振興會社ガ續イテ圓域調整機關トシテ
 同會社再朝鮮貿易振興會社ガ夫々創立セリマシタ
 更ニ陸軍ヨリ圓係通貨價值維持ノ爲在支邦商取引
 斡旋機關ノ廢止方要望ガアリマシタノテ本協會トシテモ
 從來ノ使命タル朝鮮物産ノ海外紹介・宣傳並ニ取引ノ
 仲介斡旋ニ付檢討ヲ加ヘル必要ヲ感ジマシタノテ同年五月